

銅製ピザ窯装飾

いまの日本はあまり元気がない、そんな嘆声が聞かれるが、考え方ひとつで何か変えることができるかも知れない。それを実証して見せてくれるのが、通称「なにわの板金アーティスト=宮村浩樹氏」だ。彼の作り出す銅製のピザ窯・煙突、また店内装飾、モニュメントなどの作品は、日本はもちろんアジアでも評判になっている。日本のものづくり=板金技術を、魅力的に輝かせるその発想・行動力から、我々も一歩前に進む元気をいただこう。



まさに芸術的な輝きを放つ銅製のピザ窯と煙突



イメージ&計算した形状を、ひとつずつ形にしてい



銅の素材感があますことなく作品に生かされている

宮村氏。今日も忙しく日本全国を、銅板を積んだ車で走りまわっている。



PIZZA FESTA

そんな宮村氏の行動力の源は何だろう。「昔、世界の板金技術者と技を競い合う機会があったのですが、その時、競技ルールなどに関する情報不足で悔しい思いをした経験があるんです。日本の板金技術は決して世界に負けていない！そんな自負をいまでも持っています」。そんな宮村氏だから良いものを作るために、イタリアへ勉強に出かけたり、本場のピザ窯を輸入・取り扱う会社も仲間と設立した。昨年は、その製造元の伝説的な職人を講師に招き、全国からピッツァイオーロ

日本のものづくり=板金技術を世界に認めさせるのが夢！

（ピザ職人）が集結する「PIZZA FESTA」も開催。ここでも宮村氏の銅窯装飾に話題が集中した。「好きなことだからとことんやりたい。若い世代にも私の知っていることは何でも教えたいんです」。母校で講師も勤める宮村氏。今日も忙しく日本全国を、銅板を積んだ車で走りまわっている。

待っているだけではチャンスはつかめない

まさに存在感抜群の宮村氏のピザ窯装飾。他にも店内装飾、看板、造形物など宮村氏の作品はどれも銅の魅力が際立っている。だが当然、最初から引く手あまたに仕事があった訳ではない。そこで工房を飛び出し、いろいろな人が集まる席に積極的に出かけていったそうだ。「銅で作ったハットをかぶり、アタッシュケースを下げて、とにかく目立つようにしました(笑)。なんやこいつは！と興味を持ってもらい、自分の仕事を多くの方にアピールしてまわったんです」。そこで関心をもたれた方にプレゼンテーションをかけ、幾度も失敗も経験しながら仕事を成功させていく。実績が増えればWEBに掲載し、さらに全国に向けて発信する。「良い腕、発想を持っていても待っているだけでは誰も認めてくれません。行動してこそ、はじめて伝わるんです」と宮村氏。

宮村浩樹

なにわの板金アーティスト



宮村浩樹 大阪府板金高等職業訓練学校卒。父が板金業を営んでいたことから、子供の頃から自然とものづくりに親しみ、板金技術を習得していった。独自の発想と行動力で従来の板金の枠を超えたジャンルで仕事を展開。その活躍は、多くのマスコミにも取り上げられ、ものづくり名人として内閣総理大臣賞を受賞。現在は、母校・大阪府板金高等職業訓練学校の講師としても活躍中。

USER'S VOICE

レストラン・パドリーノ・デル・ショーザン



当店は、仙台市にある「杜の都の迎賓館 仙台 勝山館」にあります。ピザ窯はロビーに設置してもらいました。そこでピザを焼き、ロビーでも食事のできるシステムにしています。銅の美しさがとても引き立てられた宮村氏の美しい銅窯や煙突は、インパクト絶大です。「これで焼くピザの味はどんなだろう？」とお客様を魅きつけてくれますね。



ピッツァイオーロ 千葉壮彦氏